

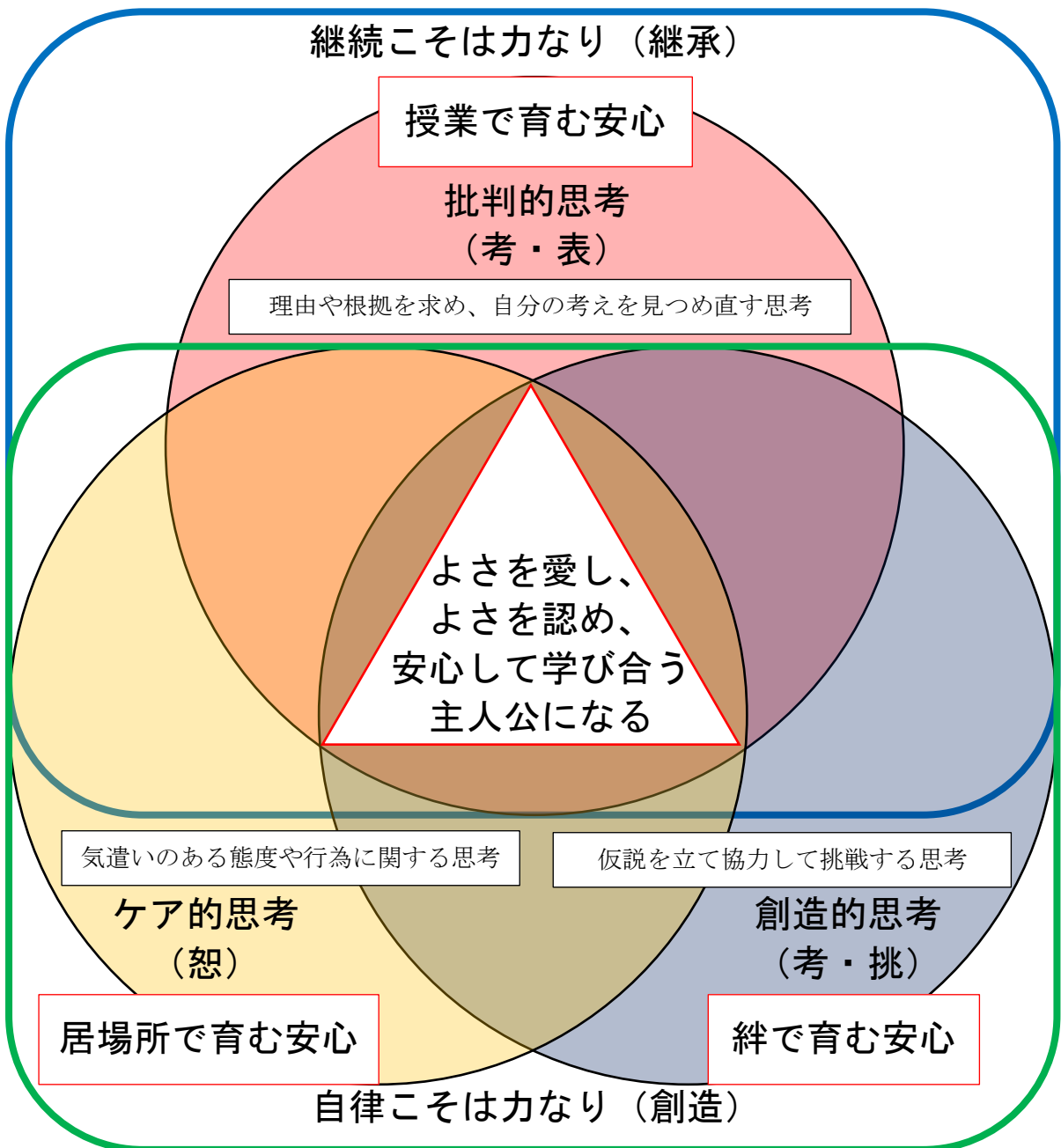
1 令和5年度 本校の教育目標

よさを愛し、よさを認め、安心して学び合う学校をつくる主人公となる

(1) 経営方針（育てたい生徒像・目指す教師像）

安心して学び合う生徒の状態は、右の図から、安全の欲求・社会的欲求・承認の欲求が満たされている状態である。言い換えれば、「家庭的に安定し、健康であり、所属意識があり、周りから認められていると感じる状態」となる。この上で、生徒は自己実現をしようと行動し始める。

生徒が生徒へ、教師が生徒へ、保護者が生徒へ、嬉しいと感じたことを伝えたり（よさを愛し）、〇〇の力があることに気づき伝えたり（よさを認め）して、安心して学び合う学校を生徒、教職員、家庭、地域が自分事（主人公）として学校をつくっていくことを目指す。



## (2) 重点努力目標

- ① 理由や根拠を大切にし、自分の考えを見つめ直す授業をつくっていけば、安心して学び合う主人公が育つだろう。
- ② 仮説を立て、協力して課題に挑戦していく絆をつくっていけば、安心して学び合う主人公が育つだろう。
- ③ 気遣いをもって自分や相手に接する居場所をつくっていけば、安心して学び合う主人公が育つだろう。

## (3) 補足説明

- ① 理由や根拠を大切にし、自分の考えを見つめ直す授業をつくるには
  - ・ 「分かる、できる」を基準にすると、「分かる・分からない」、「できる・できない」という二極化を招く。続けていると分断化が進む。
  - ・ 「難しい」「不思議だ」「どうして」といった感情から出発し、**そう思う理由や根拠を探っていくようにする**（これが課題）。誰もが参加しやすい課題であり、答えが一つではなく、様々な考えを認める機会となる。
  - ・ この理由や根拠を考えていくと、**大切にしたい真理に近づいていく**。このことを振り返って、**自分の考えを見つめ直す**ようにすれば、自分の成長も感じ取ることができる。
  - ・ 分からなかったり、困ったりしているときは**「教えて」「助けて」と言えることや、そういわれたときはほとんど教えたり助けたりすることをみんなで共有する**。
  - ・ 一斉授業は、困っている生徒、あきらめている生徒、繕っている生徒を見逃しやすいことを自覚し、教師は前からだけでなく、横から後ろから生徒を観察して、**困っている状況を察知し、教え合う活動や生徒と生徒をつなぐ支援をする**。
  - ・ 「分かる、できる」といったスキルをアップさせたいときは、そのための時間を設定して挑戦させていくようにするとよい。（単元の中で設定する）
- ② 仮説を立て、協力して課題に挑戦していく絆をつくるには
  - ・ 特別活動、道徳、総合的な学習の時間や行事、委員会活動において、仮説（目標）を立てて臨むようにする。
  - ・ **仮説（目標）は、生徒が考える**。教師はじっくり待つ姿勢が大切。**教師が考えさせたがっていることを生徒に与えてしまうと、生徒は教師が求めている正解を探ろうとしてしまう**。
  - ・ 新しい考えや他の可能性、代替案をみんなで考えるようにする。どの生徒にも発言する権利があり、沈黙する権利があるので、**発言を強要しないし、発言を抑え込もうとしない**。
  - ・ 「みんなで創り上げる」とは「**一人も取り残さないこと**」とみんなで認識する。
  - ・ 「**失敗からも学ぶ**」姿勢を大切にすること。
  - ・ 協力して活動する**過程**に、仲間との絆を感じ取ることができる。
- ③ 気遣いをもって自分や相手に接する居場所をつくるには
  - ・ 教師は、教室にセーフティーをもたらし、そのセーフティーを観察し、維持する。そのためには、**お互いによさを愛し、よさを認める環境をつくっていく**ことが大切である。
  - ・ 話し合いでは、それぞれが発言する権利も**沈黙する権利もある**ことをみんなで共通理解し、クラスの誰もが、特に、「**教師があなたを理解したがつている**」という気持ちを表すことが大切である。
  - ・ 話し合いでは、相手を誘導したり操ろうと試みたり、あるいは、相手に命令したり指図したりすることをしないことをみんなで認識する。
  - ・ 話し合いでは、他の人の発言に理があると思えば受け入れるようにし、自分の主張にどのような根拠があるのかを語るようにするという態度を大切にすること。
  - ・ 教師は、**急がないでじっくり待つ姿勢が大切**である。
  - ・ 決まった子ばかりが話しているときは、**一度流れを止めるのも教師の役割**。そして、それまでの議論を誰かにまとめてもらったり、これまでの議論をもとに戻して質問があるかどうかを聞いたりする。
  - ・ 人と比べるのではなく、**今の自分を基準にして、学びや成長に気付く**ようにすること。